

東邦大学医療センター大橋病院臨床研修プログラム

大橋・選択専攻科目

放射線科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

現代医療において画像診断の占める割合は少なく無い。日常臨床における画像診断の適応と基本的読影法について学ぶ事を目的とする。研修医の将来の専門性に関わらず、医師として画像診断に適切に対応しうる基本的な能力（考え方や知識）を理解する事を GIO とする。

放射線治療は癌の3大療法のひとつであり、高齢・担癌患者の増加する本邦での重要性は増している。悪性腫瘍を診療する全ての科に共通して習得すべき放射線治療の基本的能力を身につけることを目的とする。

2 プログラム管理運営体制

プログラム委員会は東邦大学医療センター大橋病院放射線科スタッフより構成される。本委員会は研修プログラムに関する事項、研修医評価などにつき協議する。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。

東邦大学医療センター大橋病院放射線科に配置される。臨床研修指導医の下で検査や放射線治療に関与する。

3-2 一般目標（GIO）

医師として画像診断・放射線治療に適切に対応しうる基本的な能力（考え方や知識）を理解する事

3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 各画像診断法の基本原理と適応を理解し適切な適応を選択する事ができる。
- 2) 主訴、状態、目的に応じた適切な画像診断法を選択する事ができる。
- 3) 解剖学を理解し基本的な読影を行う事ができる。
- 4) 癌の進行度、組織型や患者の全身状態に応じた放射線治療の適応を判断できる。
- 5) 放射線治療に伴う有害事象に対し、適切な対応ができる。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 単純撮影の撮影法を理解し、読影とレポート作成ができる。
- 2) CT 検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。
- 3) MRI 検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。
- 4) 核医学検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。

- 5) 超音波検査の手技が出来、読影とレポート作成ができる。
- 6) 造影剤や放射性医薬品など薬品の種類、適応、使用法を理解し適切に使用できる。
- 7) 造影剤の副作用に対処できる。
- 8) 放射線治療の適応を理解できる。
- 9) 放射線治療の有害事象を理解し、適切に対処できる。

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

画像診断が施行される疾患および放射線治療の対象となる疾患すべてを経験する必要があるが、脳神経、頭頸部、胸部、腹部、小児、骨軟部の領域ごとに、画像診断および放射線治療の対象となる頻度の高い疾患から経験する。

・臨床研修ガイドラインにおいて挙げられた、「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」についても各研修分野で該当するものを外来診療または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験する。「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」の詳細については別紙参照のこと。

・上記症候、疾病・病態を経験したことの確認については各研修分野の臨床研修指導医による病歴要約の確認、および卒後臨床研修/生涯教育センターにおいて全研修医の病歴要約の確認をもって行う。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

3-4-1 学習方略（LS）

1) 検査

超音波、CT、MRI、核医学に関して、原理および検査の基本を理解する。

疾患に最適な検査方法を選択し、施行する。

検査後、画像解剖および疾患に特徴的な所見を理解した上で、画像診断を行う。

2) 放射線治療

放射線治療の基本を理解する。解剖学的知識に基づき、出現する副作用に対して適切に対処できる。

3) カンファレンス、勉強会

- ・泌尿器科カンファレンス（隔週月曜日）

手術予定症例および手術後の結果から再検討すべき症例を検討する

- ・消化器カンファレンス（毎週月曜日）

食道および胃の手術予定症例の検討を行う

- ・脳外科カンファレンス（毎週火曜日 8:00～）

手術及び治療予定の症例に関して検討を行う

- ・小児科カンファレンス（第2水曜日）

診断が難しい症例に関して、小児放射線科医を交えて検討する

- ・肝胆膵カンファレンス（毎週木曜日）

手術予定症例および手術後の結果から再検討すべき症例を検討する

- ・胸部カンファレンス（毎週金曜日）

手術予定症例の検討を行う

・抄読会（毎週木曜日 8：00～）

当番制で画像診断に関する英文論文を抄読し討論を行う

3-4-2 週間スケジュール

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9：00～	検査	検査	検査	放射線治療	検査	検査
13：00～	検査	検査	検査	放射線治療	検査	

3-5 評価（E V）

画像診断・放射線治療に適切に対応できる基本的な能力が修得されたかを基準として評価する。検査別に臨床研修指導医が評価表をつける。

3-6-1 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任者は東邦大学医療センター大橋病院放射線科教授である。研修医は各検査室に交代で配属され、検査の実際は当該検査を担当する臨床研修指導医の指導を受ける。読影は臓器別に臨床研修指導医が指導する。

3-6-2 臨床研修指導医

添付資料『臨床研修指導医』該当診療科の臨床研修指導医、及び指導医責任者を参照のこと。

3-6-3 協力施設

※詳細は臨床研修病院群〔プログラム冊子添付資料〕参照